

一、右に准候御用相勤候者に右同斷。
 右御用相勤候に付被下候小袖中入綿、向後百目充可被相渡候。御先代被仰出之趣茂有之候處、近代區々罷成候。御家老衆に則其段相達候處、是以後右之通相心得可申旨被仰渡候條、可被得其意候。金澤表會所に茂被申越、已來間違不申様に可被相心得候。以上。

甲子四月廿四日 半田 主 鈴 印

會所御奉行衆中

一二 會所取捌諸事留

一、江戸に參着仕候節、御門外に而裝束直申者茂有之、又者待請之方に而裝束仕候敷、道中裝束之躰に而會所に罷出、古詰之同役同道に而直に御殿に罷出申候。何れに而も不苦候。御在府に候得ば御年寄衆席・御用所・御次、并頭・支配頭に而茂相達申筈。夫より其日者御小屋に罷歸る。翌日より尤毎日四時出座仕候。

一、判印鑑遣候所々左之通。扣棟取所に之有之留書に申付之事。

判印鑑 御家老衆 組頭
 右持參。

印鑑 兩御門 御作事 料紙 御臺所
 買手 割場 直段間 御旅 薪所
 大かね 小拂 御服 十一枚
 都合判・印鑑二枚、印鑑十三枚也。

但、兩御門之分は組頭に相達、頭衆より割場の相渡申候。御在國之砌は御用所に達筈と承及候所、酉五月中村藤太夫參着之砌者、組頭衆に相達事濟申事。

一、江會印押申は、買手方・御作事方・木具方所々通共、勿論假切手、其外本印之事。

一、御用所より指紙面參候節、返書不及印形判形候押紙面には、文言を請候而御年寄衆より御留守居先々名調、返書には致判形遣申候。あなたより御留守居末名に而參申候。

一、御印章物請取紙面は連判、押之紙面は御用番一名。

一、町飛脚發足以後、此方間違等に而いづれよりに而も御用之儀申來候得者、其夜之内に候得者町飛脚方に申遣候事。

一、役所仕廻候以後、銀子入等之書狀三度可指遣旨に而、何方よりに而も指越候而も相返申候。役所仕廻不申内に候へ者、前々に而も請取置申候。

一、備後守様御用に而町飛脚指留候儀、彼方より御用相濟候迄指留申筈。御家來中より御扶持方尋に參候儀、其外急御用に而無之候へ者、役所仕廻候得者、翌日此方より返事可申入旨申遣候。役人共會所に呼寄申付に者不及事。

一、御前様方より御書入箱等、御附御歩役所仕廻罷歸、會所より之案内次第罷出請取申候事。

一、御國より御書入箱到來仕候而茂、御用所に持參仕儀は勿論、裁領足輕等指添遣申儀も無之、小遣に爲持遣候。御書入と紙面肩書に調遣候事。

一、町飛脚自分事に而相渡候荷物等、質銀下直に請取申趣に相見え申候。此儀能々心付可申儀。役所より私用之者金澤に指越申間敷候。同役又は棟取等書通之儀、役儀故書通は有之候。狀斗遣申儀者格別に候。

一、御用之儀に而金澤何方より指越候而も、先は町飛脚出足當日受取申筈に候。金銀高書付無之候得ば、書付指越候

様申達候事。

一、御用之外荷物等、役所に頼申者有之候而も、急度斷申入筈に候。

一、金澤町飛脚、御成日參着仕候而も、御中屋敷之分は即日爲持可遣候。此儀は谷豊左衛門より申來、御用所にも達候所、御中屋敷之儀格別之事に候間、豊左衛門より申來候通に早速相届可然旨、御用人郡彌三兵衛被申聞。依之急御用与不申來紙面に而も、とかく即日向後相届候筈之事。

一、役所より御小屋に罷歸候而、押紙面・指紙面到來、其外輕き御用之儀紙面に而茂、返事會所に指遣候而爲調申筈。殘番御算用者調指越候を見届、指遣候事。

一、役所仕廻候以後、急御用に而布切等何方よりに而茂可受取旨申來候節、右之切入申箱場印封に候間、詰番に御算用者相見を以封爲切、取出相渡候様古物裁許に申付候事。

一、木綿類・紫革・渡り革類・揚幕・合羽等御道中物類、右御旅方預り。

但、御前様方御附之面々より幕借に來候而も、御用所よ